

青少年奉仕委員会



リーダー 伊藤 司朗

高松グリーンロータリークラブは、創立以来「青少年育成」「自然環境保護」「災害に備えて」をテーマに様々な奉仕活動を行ってまいりました。2016年度からは骨髄バンク応援団「命の授業 ～救える命なら助け隊～」を地区ロータリー財団の補助金をいただき青少年育成の奉仕事業として推進してきました。

今までに大学、専門学校、高校へ延べ1万人近くの学生・生徒や一般の方々に対し「命の授業」を発信してまいりました。それも当クラブ会員の皆様のご協力あっての事と厚く御礼申し上げます。今期も十河会長のクラブ方針をふまえ、引き続き骨髄バンク応援団「命の授業 ～救える命なら助け隊～」事業を推進いたします。

既に香川県立農業経営高等学校で12月18日(木)10時50分～12時40分で、全校生徒を対象に命の授業を実施することが決まっています。

あと1～2校で実施したいと計画中です。

今年度も会員皆様のご支援とご協力をお願いします。

骨髄バンク応援団 「命の授業 ～救える命なら助け隊～」事業

日本では毎年約1万人もの人が発症するとされる白血病などの血液疾患で多くの患者が懸命に闘病しています。有力な治療法の一つが骨髄移植です。しかし、我が国の骨髄移植数はまだまだ少ないのが現状です。

その大きな理由の一つは移植できる骨髄の型が適合しにくく、適合確率が低いことです。したがって、より多くの提供希望者を登録する必要があります。

一方で、多くの誤解があると言われています。たとえば、①手術には激しい痛みを伴う ②重い後遺症が残る ③骨髄は背骨から取る・・・など。こうした誤解を解き、正しい知識を地域社会に周知するとともに、次代を担う若い世代に骨髄バンク活動の仕組みと意義を伝えたい。

骨髄提供には年齢制限があります。だからこそ高校生など若い人たちの高校に出向き出前授業の実施や、骨髄移植を受けて生還した方を招いた講演会、街頭でロータリー活動も併せてPR活動を行い、広くアピールしたいと考えています。